

注目企業

婚礼司会は女性本来の潜在能力を生かせる仕事 結婚、出産後も即、復帰できる環境を整備

“採用率3~8%”、狭き門で採用している婚礼司会事務所、ハセガワエステ。採用後も即、婚礼の現場には立たせない。ハセガワエステが培ってきたノウハウをすべて移植するための研修制度を、1年間かけてプライベートレッスンで行なっているからだ。この厳しさの先には何があるのか、探ってみた。



長谷川卓史代表取締役会長

ハセガワエステ(東京都港区)は年間1万組を超える婚礼司会に携わっている。司会者の9割強は女性、メイン司会者の20%が専属10年の経歴を持つ。20年選手も8人おり、司会者、トレーナーとして活躍している。ベテランと新人が共存し、まさに相手を思う心を第一としたチームワークで、心温まる司会者集団を作り上げている。

「女性は生まれながらにして、人ために尽くす、育てる、というような特性が備わっています。いわゆる母性本能です。まさに婚礼司会は女性ならではの能力を生かせる仕事だと思います。それは年齢制限なく、お客さまや会場関係者さまとの出会いを通じて、人間力を一層高め、自分自身を輝かせることができるからです」(阿久津五代子社長)。



阿久津五代子代表取締役社長

と同時に、輝いている司会者をいつまでも提供し続けることが企業の生命線でもあり、企業、そして司会者が共存共栄できる職場環境づくりに取り組んだ。個々の能力を最大限に引き出し、喜ばれる司会をするためには、女性ならではの問題を解決していかなければならない。特に結婚や出産による退職は、司会者そのものが企業の生命線である限り、大きな痛手でもあり、課題となった。

また子育てを終えて復帰するにも、5年、10年もたつと結婚式を取り巻く環境は変化している。その場合、もう一度、基礎からやり直さなければ婚礼司会の現場には立てないと判断している。

培った能力、感性を途絶えさせないためにも、現場から離れる期間を最短にする必要があった。特に出産

後の子育ては協力者なしではできない。夫が仮に土日が休日でも毎週夫任せにしていたら不満が生じてくる。

そこで10年前、事務所にて土日の工作中、子どもたちを預かることを始めた。子どもたちは宿題をしたり、子どもたち同士で遊んだりして母親の帰りを待っている。親子ともに心が落ち着く。そして4、5年前、専門の保育士を起用し、0歳児~でも安心できる託児所を事務所内に設けた。

そして昨年10月、東京・南青山に「南青山たんぼ保育園」を開園した。

「出産後も継続して働くことができ、生涯働ける女性の仕事として確立していきたいと思い試行錯誤の中、取り組んできました。保育園開園まで10年かかりましたが、働くママたちが心配することなく仕事に集中できる施設、環境を提供することが使命を感じております」(阿久津社長)。

女性の従事者が大半を占めるウエディング業界において、その能力を信じ、貴重とし、結婚、出産後も継続させようと積極的に取り組んでいる企業は少ない。まだまだ、残念ながら、使い捨てだ。年齢、容姿など男性のエゴとも言える判断と、低賃金確保のために短期間で離職、退職することを歓迎している。

「婚礼司会は年齢問わず、能力、人間力ある女性が一層輝ける仕事です。生涯の仕事として働ける女性に向いている仕事として、これからも相互、共存共栄して、より良いもの、お客さまに本当に喜ばれる結婚式を提供し続けます」(長谷川卓史会長)。